

■板倉勝静 老中。井伊直弼によって罷免されたが、復活して老中となり、幕府崩壊期の幕政の処理に貢献した。

いたくらかつきよ

シボト 朴来日・1823＝ 桑名藩主松平定永の八男に生まれる。

シボト事件・1828＝ 5歳：

鼠小僧磔・・1832＝ 9歳：

大塩平八郎乱1837＝14歳：

天保改革始・1841＝18歳：

天保改革弾圧1842＝19歳： 備中松山藩主板倉勝職の養嗣子となり、

阿部正弘首座1845＝22歳：

北斎没・・・1849＝26歳： 襲封。周防守・阿波守・伊賀守と称した。

国定忠治磔・1850＝27歳：

尊徳報徳論・1851＝28歳： 奏者番となり、

ペリー来航・1853＝30歳：

蕃書調所・・1857＝34歳： 寺社奉行を兼ね、〈安政の大獄〉の五手掛となったが、寛大な処先を主張して

安政の大獄・1859＝36歳： 罷免された。

桜田門外変・1860＝37歳：

遣欧使節・・1861＝38歳： 奏者番兼寺社奉行に復し、

生麦事件・・1862＝39歳： *老中に進み外交事務を担当、〈生麥事件〉と安政の大獄関係閣老の追罰と連坐者の赦免を処理し、

禁門の変・・1864＝41歳： 將軍徳川家茂の上洛に随行し、攘夷実行の勅命を奉承して帰府したが、その行われ難いを知って辞表を提出して許されず、各国公使と横浜鎖港談判を開始し、池田長発の一行をヨーロッパに差遣した。老中を罷めて帰藩し、長州征伐に藩兵を率いて出陣した。

薩摩藩士密航1865＝42歳： 老中に再任し会計総裁となる。長州再征には寛典論を禁裏守衛総督一橋塵喜に進言し、家茂没後は慶喜の宗家相続と將軍就職に尽力、それが実現すると慶喜の幕政改革を輔佐し、

大政奉還・・1867＝44歳： *大政奉還前後は最も献替の功が多かったが、

明治維新・・1868＝45歳： 大政奉還前後は最も献替の功が多かったが、
*鳥羽・伏見の戦いに敗れ、塵喜に従って江戸に帰り、老中を辞し、家督を世子勝全に譲って隠退、松叟と号した。のち父子は日光山南照院に謹慎中、来攻した東山道先鋒総督府の軍門に降り、宇都宮英巖寺に幽閉されたが、大鳥圭介に救出され、会津・仙台を経て榎本武揚の旧幕艦隊に投じて五稜郭に抛ったが、
*その開城に先立って東京に出て自首、父子は安中藩に永預となり、旧封5万石を2万石に削られ、藩名を高梁藩と改称、養子勝弼が高梁藩知事に任ぜられた。

戊辰戦争終・1869＝46歳： 赦され、

学問のすすめ1872＝49歳： 赦され、

明治6年政変 1873＝50歳：

西南戦争・・1877＝54歳： 上野東照宮祠官となった。

明治14年政変1881＝58歳：

帝国大学始・1886＝63歳：

帝国憲法発布1889＝66歳： 没した。